

おにぎり一つ

高崎市立中尾中学校

三年 茂木 優弥

みなさんはお腹いっぱいでもう食べられない……という経験はありますか。私は数えきれないほどあります。しかし、世界中の誰もがお腹いっぱい食べることができず、飢餓で苦しんでいることをニュースで知り、とても驚きました。

その現実を知った翌週、私はとあるテレビ番組を目にし、不思議な気持ちになりました。大食いです。出演者は「おいしい」という表情ではなく、苦しそうに食べているように見えました。それは豚や牛、野菜などの命や作ってくれた人にも失礼なのではないかと思いました。私も野菜だったら嫌です。食べられるのであれば、おいしく食べられたいと思います。そして、食べ物はおいしく食べられる範囲で食べてほしい、と私は思います。

そう考えたのは、世界中で飢餓に苦しんでいる人がい

るからです。調べたところ、二〇二三年に飢餓に直面した人は約七億五千七百万人にも及ぶそうです。世界では十一人に一人が飢餓で苦しんでいます。また、死者数も年々増加しており、死者の約七割が子供です。この事実を知り、私はさらに憤りを感じました。世界には飢餓で苦しんでいる人がいるのに無理をして過剰な量の食料を食べる必要があるのか、食料を無駄にする必要があるのか、と。知らなかったただけかもしれない……。そう考える人もいるでしょう。しかし、知らなかったで済まされる問題ではないと思います。もし、無駄にしていた分の食料が届いたら、命を失わずに済んだのかもしれない。だからこそ、今、私たちが無駄にしまっている食料を見直すことが大切です。

みなさんがご存知のとおりSDGsで飢餓をゼロにという目標が定められています。二〇三〇年までの達成を目指していますが、ユニセフは現時点では達成困難と考えているそうです。また二〇五〇年には約二十億人の人が飢餓で苦しむとされているそうです。

ところで、みなさんは日本は食品ロスが少ないと思っ

ていませんか、それは間違いです。UNEPの調査によると、日本は食品ロスが世界で六番目に多いそうです。一番じゃないからいいや、そう思う人もいるでしょう。考えてみてください。日本は中国やロシアなどの国と比べたら小さいのに食品ロスは上回っているのです。そう考えると日本の食品ロスの量は、日本の食料自給率が低い原因の一つと考えています。現在の日本食料自給率は三十八パーセントと低く、この状況で輸入が止まってしまったら私たちの食生活は大きな影響を受け、飢餓に直面してしまうかもしれません。そうならないためにも、今から食品ロスを減らすことが大切だと思います。日本の食品ロスの量は、一人あたり毎日おにぎり一つを廃棄していて、一年間で三百六十五個のおにぎりを捨てている計算になります。たかがおにぎり一つ、されどおにぎり一つ、そう考えておいしく食べてほしいです。

食品ロスを減らすために、中国では食べ物を大量に注文した客、それを受け入れた店、大食い映像の配信者に罰金が科せられています。実際に、食品ロスは推計を始めてから最小になったそうです。

一人ひとりが食品ロスを減らす方法としては食べ残しをしないこと、必要な分を買うこと、賞味期限、消費期限をよく確認することが大切です。また、感謝の気持ちを持って「いただきます」「ごちそうさま」を言うことも必要です。「こんなことでいいの？」と思うかもしれませんが、こんなことでいいんです。実は私は野菜が苦手です。しかし、自分は恵まれていると分かったので、食べられるように少しずつ努力しています。

最後に、私の主張をもう一度お伝えします。食べ物は大切にしてほしい。お腹いっぱい食べられる、そんな今の環境を当たり前だと思わないでほしい。おいしく食べられる範囲で食べて、無理をしてまで食べないでほしい。この三つです。私はいつか世界中の人々がお腹いっぱい食べられる日が来るまで、自分にできることを続け、そしてこの今の環境に感謝しながら生活していきたい、そう思いました。

さあ、みなさんはおにぎり一つをどう捉え、どう食べますか。